令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム おもつべ

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390200210		
法人名	医療法人仁泉会		
事業所名	グループホーム おもつべ		
所在地	〒027－0378 宮古市田老字重津部34番77		
自己評価作成日	令和2年6月20日	評価結果市町村受理日	令和2年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

例年だと地域の方を対象に介護予防教室を開催し入居者様との交流や外食に出かけているのですが、コロナウィルスの感染拡大防止により、外部の方の来設は禁止。どこにも出かけられない状態です。しかし、そんな中でも入居者様のストレス軽減と楽しみを持って生活できるように、ホーム内でのレクリェーションや、饅頭づくり、立地条件を生かしたウッドデッキでの青空ランチ、職員手作りのバイキング、近場へのサクランボ狩り等、私たちに出来る事を模索しながら、入居者様の笑顔を引き出すように職員一丸となり努めております。また、認知症緩和のために学習療法を取り入れ、その方のレベルにあった教材で楽しんで行えるように支援しております。昨年10月から認知症対応型通所介護をスタートし、利用される方に対しては個別対応を軸とし、担当ケアマネと連携をとり安心した生活が出来るように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

介護支援を通して理念に掲げる「利用者の笑顔」を引き出すことを、職員は強く意識して日々の実践を重ねている。地域との連携や交流を大切にした運営も特徴的であり、行政の要請に対応した地域住民を対象とした介護予防教室「こびりの会」等は、コロナ禍のため中断しているものの、多くの住民が参加し好評を得ている。住民等によるボランテイアの協力も活発であり、災害避難時にも近隣の協力があるなど、連携と協力が良く図られている。昨年の台風災害の際には、早期の避難を決断し、系列の老健施設に全員が無事に避難することができており、この決断と行動は高く評価される。ブレーンストーミング法や気付き、感謝を素直に記入する「改善ノート」を活用するなど、職員の意見を引き出す取り組みも工夫しながら行っている。外出支援は、大変困難な状況にあるが、近場のお花見やサクランボ狩り等を行い、利用者の笑顔を引き出す努力をこのコロナ禍にあっても重ねている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 ２ 年度

事業所名 ： グループホーム おもつべ

２ 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の笑顔を引き出すために、まずはおもつべ職員心がけ「目配り、気配り、心配り」を意識し地域の方、ご家族様と共に歩んでいけるように努めている。	事業所の理念を「いつも笑顔で、共に歩いていきましょう」とし、事業所内に掲げるとともに、適時に職員の確認も行っている。利用者の笑顔を引き出すケアを実践し,また、職員の心掛けとして「目配り、気配り、心配り」も掲げ、日常の業務に生かされている。利用者の笑顔は職員の元気の源にもなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方も参加できる行事（地域交流運動会・バーベキュー・介護予防教室等）を開催し、入居者様との交流に繋げている。今年度はまだ出来ていない。	事業所で住民対象の市の介護予防教室「こびりの会」を2ヵ月毎に開催し、地域にとっても大事な場となっている。例年、地元の保育所の運動会等には見学に出かけている。また、地元ボランティアの方々が演芸を披露したり、作品作りを手伝ったりしてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室では、体操だけでなく認知症についての勉強会を取り入れ理解を深めていただいた。（今年度はできていない）		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表・ご家族へホームの活動状況を報告し、市職員に参加してもらいアドバイスをいただき今後の活動に繋げている。保育所の所長にも参加していただき、運動会などでは、玉入れなどを貸していただいたり、保育園の行事には見学させてもらっている。（今年度はまだ）	地域関係者の他、駐在所や保育所の関係者も委員となっておりバランスよい構成となっている。利用者の生活状況や行事の報告が主な議題だが、昨年は災害が多かったことから、避難行動や避難先での生活等の話題が多く、盛会となっている。今年はコロナ禍のため3月から開催できない状況にあり、資料を市役所担当課へ提出している。	コロナ禍のため、3月以降は内容を市に報告するのみとなっている。書面開催とするなどして、各委員にも情報を提供して意見を伺うなどの工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年は介護保険からの市民講座において認知症の寸劇を依頼され、脚本を作り、他グループホームの職員とほほえみ一座を立ち上げ市職員とリハーサルを行った（台風１９号で中止）田老地区連絡会に参加し、多職種の方々との意見交換をしている。	市から市民対象の認知症講座や寸劇披露を依頼されるなど、行政との連携は図られている。また、地域包括支援センター主催の田老地区会議は2ヵ月毎に開催されており、毎回参加し関係機関相互の顔の見える関係が深められている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム おもつべ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内・ホーム内で研修・勉強会が行われており職員は理解して実践している。今年度に入り主治医から「拘束するしかない」と言われた方がいたが、拘束だけは回避したい全職員の考えから、出来る事を実践ししなくて済んだ。	法人として身体拘束廃止指針を作成し、委員会も2ヵ月毎に開催されホーム長が参加している。玄関は夜間のみの施錠としている。ベッドセンサーは設置していない。医師から拘束を勧められるほど重度の認知症の利用者がいたが、2ヵ月間畳の部屋に移し誠心誠意対応した結果、心身も落ち着き現在では居室で安心して過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内・ホーム内で研修・勉強会が行われており職員は理解している。今年度はホーム内だけで最低2回はホームで起こりえる虐待・拘束についての勉強会を予定している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はない。法人内で研修があり参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明をし不安や疑問に関しては一つ一つ答え納得していただいてから利用していただいている。入居後も、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・行事等の参加を促し、来設時に伺っている。遠方の方へは電話や、お手紙などで細かい様子を伝え要望を伺っている。	利用者の中で3人ほどが言葉で意見等を話せ、外出や買い物の希望などがよく出され、目を合わせて来る利用者2名については、職員は表情で思いを読み取るよう努めている。家族には毎月広報を郵送し、利用者の様子をお伝えしている。家族の来訪時に面談して希望等を伺うほか、面会が少ない場合はホームから電話して伺う場合もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議での意見交換、個人面談による聞き取りを行っている。今年度は、職場アンケート（パソコン入力法）により管理者への要望を聞くことができた。連絡ノートや改善ノートの活用が役に立っている。	毎月の業務会議において職員からは意見が良く出されるほか、「申し送りノート」や「改善（感謝）ノート」も活用されている。改善ノートには、各職員が気付いた事や感謝した事等が記入しており、職員間の関係改善に役立っている。管理者との個人面談も年3回行われている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム おもつべ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を受け優先している。休憩時間を必ず1時間取れるように改善した。改善ノートには、相手に対して感謝の言葉が多く書かれ、チーム力アップにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じた研修参加、資格取得を全面的にバックアップしている。ホーム内では担当を決め毎月勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に行われる田老地区連絡会に参加をし意見交換している。また、他グループホームの運営推進会議に参加し意見交換できている。」		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申請時、ケアマネ、家族から生活歴や困っている事を聞き取り、短期入居の利用で納得していただいてから利用を進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、可能であれば自宅訪問し家族が納得できるように説明し、分からない事があればいつでも対応できるように電話番号を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議を開催し、本人にとって一番良い方法をとり職員全員でそれに向け統一している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒にキッチンに立ち、盛り付け・調理の手伝いをお願いしたり、洗濯物を干していただいたりたたむ作業・食器拭きほつれを縫っていただいたりできる範囲で行ってもらっている。職員はありがとうの言葉をかける。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム おもつべ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を促している。バーベキュー・運動会・敬老会・新年会など。その場で家族とご本人に寄り添い普段の様子や、本人の気持ちを家族に伝えている。今年度はコロナでできていない。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り行ってきているが、最近は全般にレベル低下・認知機能の低下により、難しくなってきている。せめてコロナがなければ、地域の方々をホームに招くことはできるのだが現段階では厳しい。	理美容で出かけることはなくなり、地元の理容師が2ヵ月毎に来訪し馴染みとなっている。買物では職員と一緒に馴染みのスーパーに出かけている方もいる。実家や墓参りに行ける方は1人位となっている。海を見るドライブも行っており、沿岸で暮らしてきた利用者に好評である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリェーションを通じコミニュケーションをとれるように支援している。また、困っている人を見れば手を差し伸べてくれたり、危険な行動をされる方を見れば職員にすぐ教えてくれます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居になった方に対して、職員が順番に病院に出向き本人、家族に様子を伺ったり、元気づけるようにしている。住み替えで老健に移った方に対しても、時々顔を出すようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から聞き取りをしたり、訴えの無い方はBS法にて本人の気持ちをくみ取るようにしている。表情がすぐれない方に対しては本人の居室で、二人きりになりゆっくり気持ちを聞くようにしている。	職員カンファレンスにおいては、BS法を活用して、利用者の思いや意向を把握する取り組みも行っており、これによって把握した事項は介護プランに反映されている。また、各利用者の居室で職員が語り掛けゆっくりとお話して、利用者の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ、家族から聞き取りをし、入居後も生活のリズムを変えないように安心して暮らせるように支援している。（皆が起きていても起きてこない方には時間の許す限り本人が起きてくるまで待っている）		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンスにて評価を行いできること、できなくなったこと、好きなこと、嫌がることなどを話し合い職員で共有している。		

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム おもつべ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネ、家族、から聞き取りした情報から問題抽出し、入居後は本人の言葉や、行動から気持ちを察し、職員間で話し合い実践に繋げている。（できることは継続していただきできなくなった点があれば、新たにできる事を見つけプランに反映させている。）	介護プランの原案は計画作成担当者であるケアマネが作成し、職員カンファレンスで話し合いのうえ、ホーム長が決定している。モニタリングは3ヵ月毎に行われ、プランの見直しも3ヵ月毎となっている。基本目標を利用者ができることをなるべく継続していくことに置いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送りや、連絡ノートで情報を共有している。26の（）と同じ		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナの影響で外部からの来設は困難だが、ホームでできる事をしている。青空ランチ・ドライブ・その他季節の行事（一緒にのり巻きづくり・饅頭作り・菖蒲湯に入っていただくなど）コロナで騒がれている中、たまには外へ出かけたいと思い全員でさくらんぼ狩りに出かけた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年だと地域の方参加の行事があったり、しゅう1回のボランティアの方の支援もありますが、コロナの影響でできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は8名協力医である田老診療所を利用している。1名は以前から利用されている病院を利用。	9人中8人が地元の田老診療所をかかりつけ医としており、1人は個人医院を利用している。通院は月1回を基本として職員が付添い対応している。また、連携している同法人内の訪問看護ステーションから、週1回看護師が訪れ日常の健康管理に当たっているほか、緊急時の夜間対応にも対応できる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連携しており、週1回の来設時に受診内容、日常の様子を報告している。急変時には連絡をし指示を受けている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム おもつべ

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要な場合は主治医から県立病院を紹介され治療を受けるようになる。その際は医療連携室と連絡を取り、病状を把握しホームに戻れるよう、また長期入院の場合は退院後の受け入れ先を確保し安心して治療が受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を入居時に説明をし同意を得ている。個々の病状や主治医の判断によるが本人と家族の気持ちに寄り添いうその都度話し合い本人にとって一番良い方法を考え支援していく。ホーム内で看取りの勉強会を行いパートも含め意識付けを行った	重度化した場合の対応については入居時に説明して同意を得ており、状態が悪化して入院し、その後は法人内の老健施設を利用する方もいる。看取りについては、これまで1人の経験がある。職員はつらい思いもするが、協力医の支援も得ながら、今後に向けて取り組みたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置している。夜間の緊急時は連絡網にて行動。状態が悪い方がいる場合は、都度夜間の対応について連絡ノートに記入したり、職員間で周知している。職員は全員救命講習会を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。ホームの電話にはワンプッシュで繋がるように近い職員の番号が入っている。また、火災の通知版には地域の方2名の電話番号が入っておりすぐに駆けつけていただけるようにしている。	昨年秋の台風災害では、系列の老健施設に避難し3週間の避難生活を経験した。雨水で削られたホーム前の道路は修復したが、今後も大雨時の早期避難が必須と認識している。近隣の2人の方に協力者となっていただいており大変心強い。夜間想定の避難訓練を既に行っているが、より実際的な夕暮れ時での開催も検討している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助・移動の際は本人のプライドを傷つけないようにしている。特に便失禁の時は入居者は職員の表情に敏感なので穏やかな言葉がけをし、細心の注意を心掛けている。	1ヵ所のトイレからは、失禁時のプライバシー確保に配慮し、ホール内を通らずに浴室に行けるよう配置されている。特に失禁時には、本人の気持ちに配慮して、笑顔で優しい声掛けを励行している。着替えは居室内で行うよう配慮している。	

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム おもつべ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できる方はその思いをできるだけくみ取り、できず不穏になり徘徊する方や、帰宅願望（子供が待っているという方）の方に対しては、他の業務より一緒に散歩にでかける事を優先している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	読書や植物が好きな方に対しては、家族と相談して、居室にテーブル・椅子・観葉植物を置き、好きな時にリラックスして過ごせるように居室作りをしている。音楽をかけると体を動かし始めるかたに対しては職員が手を取り一緒に踊り笑顔を引き出している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の美容院に来ていただき、カットをしてもらっている。外食の時は、自ら好きな服を選んでもらいます。（今年度はまだ外食できていない）		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い季節を感じ会話を楽しんでいる。野菜の皮むき・饅頭作り・食器洗いや拭き方は職員と行っている。元旦には職員が作ったおせち料理を重箱に詰める作業をしていただきました、	献立作成や調理は職員が交代で行い、利用者の希望を出来るだけ反映した食事内容としている。利用者は、下拵えや茶わん拭きなどをよく手伝っている。年に数回はファミレスや回転寿司に出かけて楽しんでいる。年1回のバイキング料理では、取り組む職員も達成感を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎日記録し不足している時は好みの味でとれるようにしている。また、定期的に病院で血液検査を行いアルブミンが低い方や、食が細い方には高カロリー食を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアをしている。舌苔が厚い方に対しては重曹を使い清潔保持に努めている。（衛生管理士によるケアを予定している）		

令和 2 年度

事業所名 ： グループホーム おもつべ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンをを把握し、失費しないように個別に声掛けしている。また、夜間はそれぞれの尿量に合ったパットを使用しできる限りトイレでの排泄を促している。日中は2名布パンツ・7名リハパン使用。	布パンツを使用し自立している方が2人で、他はリハビリパンツを使用している。夜間のみオムツ使用者が数名いる。排泄チェック表を活用しながら、適時のトイレ誘導や声掛けを行っている。排泄も困難な車いす使用の利用者が1人いるが、寝たきり防止や手足の衰えを防ぐため可能な限りトイレを利用するようにするなど、程度が悪化しないよう心掛けて支援しており、家族からは実家では見られない笑顔が見られたと驚かれることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排泄管理を行っている。便秘になるとどのような症状になるかを職員間で周知し、下剤を使用したり、食事の際食物繊維が豊富なものの提供、オリーブオイルなどを使用し便秘にならない工夫をしてる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるように準備している。拒否がある方に対しては、時間をおいて声をかけている。	毎日入浴できるようにしており、2日に1回が基本となっている。今は、同性介助希望や入浴を嫌がる方はいない。時期になると、季節を感じられる菖蒲湯やゆず湯を楽しんでもらっている。入浴は職員と1対1となる時間でもあり、ゆっくりと会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、ソファーなどで居眠りをされている。夜間は室温や寝具に注意し気持ちよく眠れるように支援している。（寒い時・暑い時は夜勤者がエアコンをつけたり消したりしている）		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員はある程度、服薬されている薬の目的を把握している。主治医に許可をいただき、薬の効きが強い時は調整している。（下剤・睡眠剤等、今は睡眠剤を使用する方はいない）		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯物干し・たたみ・食器拭き・裁縫・食材切りなどを一緒に行っている。おやつの時間は、昔の歌を携帯から流し、口づさんで当時の話などを聞かせていただくこともある。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム おもつべ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響でほとんど外出はできないが、病院受診の際、家族に同行していただき帰りに外食などをされてきてる。新年会（市内のホテル）に出かけたり、さくらんぼ狩りに出かけ、普段とは違う空気を楽しんでいただいた。	コロナ禍のため、外出機会が相当減っており、悩みとなっている。それでも、春には市内の公園に出かけてのささやかな花見ドライブや岩泉町でのサクランボ狩りを楽しんできた。また、ホームの広いウッドデッキに出ての外気浴や、周辺の散歩なども行っている。市内ホテルでの恒例の新年会も盛況に開催されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内の持ち込みは禁止している。欲しいものがある時は、立て替えで購入。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの影響で面会できない分、電話で様子を伝え、本人と話をしていただいたり、遠方の方には手紙で様子を細かく書き伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは仕切りがなく自由に動けるようになっている。3つのソファーで休まれる方や畳間で休まれる方、それぞれ好きな場所で過ごされている。季節ごとにホーム内をディスプレイし季節を感じていただいている。	食堂を兼ねた広いホールにはゆったりとソファも置かれ、利用者はテレビ鑑賞や読書などして寛いでいる。キッチンはホールと対面となっており、利用者の様子を見ながら調理している。壁面には、季節毎のディスプレーや花見、サクランボ狩りの写真などが飾られており、明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お茶を飲みながらカウンター越しに会話したり、気の合った同士が丸テーブルでおしゃべりしたり、ゆったり座れるソファーや横になれる畳間などがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に安心して暮らせるように、居室作りをしている。定期的に移動図書から本を借り、好きな時間に読書をされる方もいる。若い時に加山雄三や橋幸夫の追っかけをしていた方の居室には、2人の顔写真を張り喜んでいただいた。	居室には、ベッドやクローゼット、エアコンが備付けられており、利用者は衣装ケースや家族写真、家族からのプレゼント等を持ち込み、お気に入りの歌手の写真を壁面に飾るなどして、それぞれに居心地の良い部屋となっている。	

令和 ２ 年度

事業所名 ： グループホーム おもつべ

２ 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事を見つけ継続できるように支援し、できなくなれば、新たにできる事を職員全員で考え支援するようにしている。また、学習療法を行うことにより少しでも認知症緩和に繋げれるので、その人のレベルに合わせて継続していただいている。		